

事務事業評価シート (評価対象年度：令和2年度)

1. 基本的事項【PLAN】

①事務事業名	塵芥収集車両管理・整備事業					②事業番号	3304
③事業類型	4. 施設等維持管理事業			④開始年度	昭和 61 年度	⑤終了予定年度	年度 ○ 設定なし
⑥根拠法令等	○ 法令	○ 条例	規則	要綱	計画等	その他	法令等の名称: 泉南市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例
⑦実施手法	○ 直営	全部委託	一部委託	補助・負担	その他		
⑧関連予算科目コード	款	4	項	2	目	2	細目 3・5
⑨担当部名	⑩担当課名			会計 一般会計			
市民生活環境部	清掃課						

2. 事務事業の現状把握【DO】

〔1〕事務事業の目的・事業内容

(1)対象(誰、何に対して事業を行うのか)	対象指標(対象者数を表す指標)	単位
① 塵芥車	① 塵芥車(保有台数)	台
②	② -	-
(2)事業内容(具体的な事務事業の内容、どのような方法で実施しているか)	活動指標(活動の量を表す指標)	単位
・塵芥収集車を適正に維持管理する。 ・使用年数を超えた車両の更新。 ・新規購入は登録業者による入札。車検業務は市内業者で見積合わせのうえ依頼。車両修理は車検受託業者に原則依頼。 ・自賠責保険や全国市有物件災害共済会に加入。	① 新車購入台数	台
	② タイヤ交換本数	本
	③ オイル交換量	ℓ
(3)意図(対象をどのような状態にしたいか、何をねらっているのか)	成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位
車検、点検及び修理することで、故障を未然に防ぎ塵芥車の効率的な運用を図る。	① 修理件数	件
	計算式	-
	② 事故件数	件
	計算式	-
	③ 塵芥車平均年間走行距離	km
	計算式	-
(4)結果(対象を意図する状態にすることで、何に結びつくか。上位施策との関連)	総合計画体系上の位置付け	
塵芥収集車を適正に管理することで、安全で円滑なごみ収集業務を行い廃棄物の減量化、再資源化の推進につながる。	政策(章)	5 快適で活気にあふれ、環境にやさしいまち
	施策大(節)	3 日常生活や事業活動などにおいてすべての市民・事業者が資源・エネルギーの利用などに配慮し、環境に負荷をかけないまちをめざします
	施策中	1 資源・エネルギー有効利用の推進
	施策小	2 再資源化の推進

〔2〕各種指標値、事業費の推移

	指標名	単位	H30実績	R1実績	R2実績	R3見込	R4目標	
対象指標①	塵芥車(保有台数)	台	24	24	24	24	24	指標値の推移における特殊要因などの説明
対象指標②								
活動指標①	新車購入台数	台	1	1	2	2	2	—
活動指標②	タイヤ交換本数	本	79	105	80	80	80	
活動指標③	オイル交換量	ℓ	322	343	283	283	283	
成果指標①	修理件数	件	98	83	71	78	75	
成果指標②	事故件数	件	15	10	10	11	9	
成果指標③	塵芥車平均年間走行距離	km	10,304	11,193	10,817	10,603	10,955	事業費などの推移における特殊要因などの説明
事業費	投入人員	人	1.43	1.53	1.46	1.46		
	正職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00		
	任期付職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00		
	臨時職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00		
事業費	人件費(投入人員×単価)	千円	11,593	11,799	11,143	11,143		
	直接事業費	千円	20,202	25,586	27,326	26,256		
	総事業費	千円	31,795	37,385	38,469	37,399		
財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0		—
	府支出金	千円	0	0	0	0		
	受益者負担金	千円	0	0	0	0		
	その他特定財源	千円	3,815	8,297	9,180	13,327		
	一般財源	千円	27,980	29,088	29,289	24,072		

〔3〕事務事業開始の経緯、状況の変化、評価結果への対応

①この事業を開始したきっかけは何か。	塵芥車(バッカー車)の整備及び管理を徹底し、家庭系一般廃棄物を収集運搬するため。
②開始から現在までこの事務事業を取り巻く状況は、どのように変化したか。また、今後どのように変化していくと考えられるか。	塵芥車(バッカー車)での粗大ごみ収集を行わないことで、架装部の故障が減少し、高額な修理費が削減された。また、塵芥車の性能も向上していることから、適正に維持管理すれば、更なる修理費用の削減が見込まれる。
③前年度の評価結果を受けて行った改革・改善の取組はあるか。	車両の異常を早期発見することを目的に引き続き始業前点検を確実に行った。

3. 事務事業の評価【CHECK】

〔1〕目的妥当性(必要性)			A.高い	B.やや高い	C.やや低い	D.低い	〔1〕の評価	A
評価項目			評価及び理由・説明等					
①事業サービス内容、質、規模等は市民のニーズや社会環境に合っていますか。 (他団体と比較してどうですか。)			ア. 合っている アイ. ある程度 ウ. いない	ごみの分別区分や収集体系を維持するには現在の塵芥車の保有台数が必要。				

〔2〕有効性			A.高い	B.やや高い	C.やや低い	D.低い	〔2〕の評価	A
②期待どおりの成果が得られていますか。			ア. 得られている アイ. ある程度 ウ. いない	塵芥車を適正に管理することで収集業務を円滑に行い、市民の快適な生活が確保できている。				
③今後事務事業を工夫することで成果向上の余地はありませんか。 (事務事業の成果指標をさらに伸ばすことができませんか。)			ア. ある アイ. ない	運転手による点検を確実にを行い故障を未然に防ぎ修理費の削減を図る。				
④庁内の他部署で、類似の目的を持つ事務事業はありませんか、それらと統廃合や連携を行うことで、より成果を向上できませんか。			ア. 類似なし アイ. できる ウ. できない	—				

〔3〕効率性			A.高い	B.やや高い	C.やや低い	D.低い	〔3〕の評価	A
⑤成果を下げずに事業を工夫してコスト(直接事業費＋人件費)を削減する手法はありませんか。 (業務改善、業務の委託化、委託業務内容の見直し、IT化などはできませんか。)			ア. ある アイ. ない	定期的にエンジンルームを開けて点検する事で故障を未然に防ぎ修理費の削減につなげる。				

4. 総合評価

総合評価	評価(A～D)	個別評価の結果を踏まえて課題等を整理	A:現状のまま事業を進めることが適当 B:課題が少しあり事業の一部見直しが必要 (事業の進め方に改善が必要) C:課題が多くあり事業の大幅な見直しが必要 (事業規模、内容、実施主体の見直しが必要) D:事業の統合、休止・廃止の検討が必要
	A	円滑な一般廃棄物の収集運搬には塵芥車の適正な管理が必要である。	

5. 改革、改善案【ACTION】

＜今後の方向性＞

ア

ア. 現状のまま継続

イ. 見直しのうえで継続

ウ. 終了
↓
(年まで)

エ. 休止
↓
(年から)

オ. 廃止
↓
(年から)

＜今後の展開方針＞

a. 重点化する(集中的なコスト投入)

b. 手段を改善する(実施主体や実施手段を変える)

c. 効率化する(コストを下げる)

d. 簡素化する(規模を縮小する)

e. 統合する(他の事務事業と統合する)

①改革、改善の具体案、実施年度など	—
②改革・改善を実現するうえで、解決すべき課題及び考えられるその解決策	—